



# 国リハニュース

国立障害者リハビリテーションセンター専門情報誌

## 目次

### 特集

『国リハ各部門の連携による研究への取り組み』

3Dプリンタを活用した自助具製作の有用性検証に関する研究 ————— 2

発達障害者の感覚の問題に関する調査研究 ————— 4

### トピックス

障害インクルーシブ災害リスク軽減の国際動向 ————— 6

第9回POアカデミージャーナル論文賞受賞報告 ————— 8

### インフォメーション

令和元年度発達障害臨床セミナーへのお誘い ————— 9

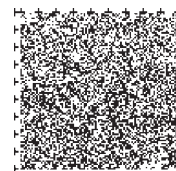


【充電ケーブル着脱用自助具（3Dプリンタを用いて製作）】

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

電話 04-2995-3100 FAX 04-2995-3661 <http://www.rehab.go.jp/>

国立障害者リハビリテーションセンター企画・情報部 企画課



# 3Dプリンタを活用した自助具製作の 有用性検証に関する研究

研究所 福祉機器開発部 福祉機器開発室長 硯川 潤

**研究期間**：平成28年7月～令和2年3月

**研究代表者**：硯川潤

**部門間連携先**：自立支援局第二自立訓練部

**連携内容**：第二自立訓練部作業療法室と連携し、3Dプリンタを活用した自助具製作を実施。

**研究ゴール**：作業療法の現場において、3Dプリンタを活用した自助具製作の有用性を検証する。

## 研究概要

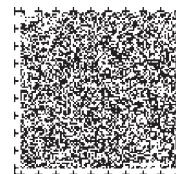
自助具は主に上肢を使った作業を補助するための福祉用具です。製品として購入可能なものもある一方で、ニーズが多岐にわたるため作業療法士が手作りすることもあります。手作りの場合、ものによっては耐久性や形状精度の不足が問題となっていました。そこで、近年低価格化している3Dプリンタを自助具の製作に応用する研究を進めています。本稿では、本センター自立支援局第二自立訓練部の作業療法士と共同で、入所する頸髄損傷者の方々に製作した事例を紙幅の許す限りご紹介します。

## 事例紹介

- (a)キーボードの押下：手掌部に装着し、パソコン操作に用います。手掌のサイズなどに応じて、各部の幅や角度を調整する必要があります。従来はアルミ材を曲げて製作していたため、細かい調整は困難でした。そこで、身体機能の評価結果にもとづいて数個の値を設定すると、所望の立体形状データを生成できるソフトウェアを新たに開発しました。
- (b)シリンジピストンの固定：導尿カテーテルの

バルーンに蒸留水を注入するシリンジのピストン部に取り付け、その固定に用います。注水後にシリンジを抜去する時、バルーンの反発力でピストンが押し戻されないように保持・固定する必要があります。手指機能に制限があるとシリンジ抜去とピストン固定の動作を同時に遂行できないため、この自助具が必要となります。

- (c)鍵の保持と回転：玄関ドア等の鍵に取り付けて用います。小さな力でも鍵の回転に必要なトルクを発生できるようになります。
- (d)消毒液スプレーボトルの保持：自身の膝の上にボトルを置き、スプレーを噴射するときに、安定して保持するための自助具です。
- (e)電動髭剃りへの電源コード着脱：流線型の管体形状に合わせた固定具に髭剃りを置き、電源コードを抜き差しします。コード側にも、指を引っ掛ける紐を通す器具が取り付けられています。
- (f)電動髭剃りの保持と電源ボタンの押下：手掌の甲側で髭剃りを保持するために用います。髭剃りを机などに押し当てると、電源ボタンも押下できます。国リハ入所前の入院先で手作りされたものが古くなり、再製作しました。
- (g)飲料缶の持ち運びと保持：アームレストに自助具の一部をはめ込むことで車椅子に固定できるので、飲み残しがあっても手漕ぎ動作の妨げになりません。
- (h)自動販売機からの釣銭回収：自立支援局に設置されている自販機から釣銭を回収するために製作しました。返却口にこの自助具をはめた状態で、釣銭を投下します。自助具を取り外す時は、返却口の蓋を棒で奥に押し付けま

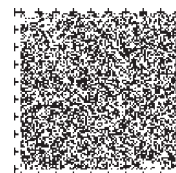


す。

(i)スマートフォンからのケーブル抜去：抜去に必要な力を軽減するための、てこの原理を用いた自助具です。レバー先端を倒すと、反対側がスマートフォン筐体を押し、ケーブルが引き抜けます。

(j)コンセントからのケーブル抜去：上記のコンセント版です。

(k)電動ベッド用コントローラボタンの押下：ボタンの突出高さが低く押しにくい場合に用います。押下に必要な力も軽減できます。



# 発達障害者の感覚の問題に関する調査研究

研究所 脳機能系障害研究部 発達障害研究室長 和田 真

## 1 研究課題の概要

研究期間：平成30年5月～令和4年3月

研究代表者：和田真

部門間連携先：発達障害情報・支援センター  
連携内容：

本センター発達障害情報・支援センターと連携して下記のことを行なっています。

- 1) 発達障害者の感覚の困りごとに関するアンケート調査を実施
- 2) 結果の分析（どのような感覚の問題が生じて、どのような対処をしているのか）
- 3) 感覚の困りごととその対処法を広く共有することを目的に「困ったとき、どうする」集（仮称）を作成

## 2 研究の背景

発達障害における「生きにくさ」として、社会性・コミュニケーションの問題が広く知られている一方で、感覚面で様々な困難が生じることが注目されています。例えば、当事者研究にもとづく書籍等からも「雑踏の中で話し相手の声が聞こえづらい」「球技が苦手」「服のタグが苦手」といった様々な困難と直面していることを窺い知ることができます。近年の研究から、これら感覚の問題の背景には特有の感覚・認知特性があることがわかってきました。例えば、発達障害のうち自閉スペクトラム症（Autism spectrum disorder, ASD）の方では、状況次第で、視覚情報と聴覚情報の統合に問題があり、それが会話場面での言語理解を悪化させている可能性が考えられています。しかし、様々な困りごとについて、背景にある認知特性との対応

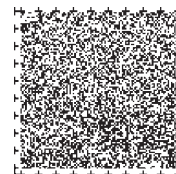
関係は、いまだ明らかになっていません。障害特性の背景を明らかにすることは、オーダーメイド的な環境調整や発達支援を実現可能にすると考えております。そこで、我々は、当事者の方の感覚認知の特性と、日常の困りごとのつながりやセルフケアを明らかにすることを目的に、本研究課題では、感覚の問題に関するWEBアンケートを実施しました。

## 3 研究の方法

本調査では、発達障害者の感覚の問題が、「いつ」「どこで」「どんな感覚種別で」「どのような」問題が生じ、「どんな対処」により軽減するのかについて聞き取るために、選択肢と自由記述を組み合わせた質問票を作成しました。質問項目は、当事者や医療関係者・研究者・行政官らが参加する発達障害に関する工学的支援の促進を検討する有志の勉強会（OhToT）の協力を得て作成し、国リハセンターの倫理審査委員会の承認を得たのちに、発達障害情報・支援センターのWEBサイトに調査票を掲載して、記入を募りました。その結果、平成31年1月時点で431件のデータが集まり、その内容を集計・検討しました。

## 4 結果と考察

「最もつらい感覚の問題」として、聴覚が全回答の半数近くを占めることがわかりました。続いて、視覚や触覚に関する問題などがみられました。一方「二番目につらい感覚の問題」となると、視覚や触覚、嗅覚の問題など他の感覚に関する回答が多くなりました。このことは、発達障害の方は、様々な感覚の問題を感じている



一方で、日常環境の中で、生活の質を落とす原因となっているのは、聴覚の問題が大きいことを示しています。また、回答の精査から、ASDの方では、最もつらい問題として触覚の問題が少なくないこともわかり、特有の感覚特性が背景にあることを示唆しています。

聴覚の問題としては、1) 大きな音や不意に生じた歓声が苦手、2) 赤ちゃんの泣き声や電子音、機械音など高周波の音が苦手、3) 周囲の雑音など注目すべき音以外も大きく聞こえてしまう、4) たくさんの人がいる場所などで会話の聞き取りが困難、といったものが多くを占めていました。大きく分けると、聴覚の過敏と聞き取りの困難（選択的聴取の困難）です。前者について、多くの方がノイズキャンセラー付きのイヤホン等で対処される実態が明らかになる一方、触覚の過敏の並存により、その対処が難しい方もいらっしゃるものが浮かび上がってきました。また聞き取りの困難については、聞き返しや環境調整で対処している様子が伺えましたが、抜本的な解決策はなく、今後の対応が必要なことがわかりました。

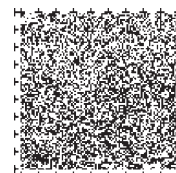
視覚の問題としては、1) 強い光やチカチカした光が苦手、2) 視覚情報の選択や読み取りが困難、といったものが挙げられていました。前者については、サングラスやカーテン等による遮断で対応することが多いようです。しかし、後者については、環境調整は試みられているものの抜本的な解決策はないようです。

このように、視覚の問題と聴覚の問題については、感覚の過敏の問題と情報の取舍選択の問題に大別できるところは、聴覚と視覚の問題に共通性があるのではないかと考えられます。

一方、触覚の問題については、服のタグが不快であるなど服の性状や形状に関するものが多く、聴覚や味覚では、特定のニオイや味のものをつらく感じられることが多いこともわかりました。

## 5 結論と今後の展開

本調査から、日常生活上で、大きな問題となっている感覚の困難とその対処法が浮かび上がってきました。病院との連携により、当事者の方に、実験参加いただくことで、その感覚・認知特性とその困りごとの関係を明らかにする研究も進めていきたいと考えております。さらに、本研究の成果を「困ったとき、どうする」集(仮)として公表することで、どのような対処や支援が有効であるか、啓発や情報共有を促進するとともに、感覚の特性に応じた発達支援や支援機器の開発に向けた検討も進めてまいりたいと考えております。



# 障害インクルーシブ災害リスク軽減の国際動向

研究所 障害福祉研究部 北村弥生

本稿では、「障害インクルーシブ災害リスク軽減（あるいは、障害インクルーシブ防災、DIDRR: Disability Inclusive Disaster Risk Reduction）」の国際動向について、リハビリテーション・インターナショナル アジア太平洋会議（2019.6.26-28、マカオ、中国）での発表を中心に紹介します。

DIDRRの必要性の根拠として引用されるのは、「東日本大震災による障害者の死亡率2.06%は全人口の死亡率1.03%に比べて2倍」という数字です。特に、宮城県で障害者の死亡率が高く、地域で自立生活をする者が多いためと推測されています。つまり、病院や入所施設から地域に戻る際に、以下の3項目の準備が期待されます。①居住地の災害リスクの確認と地域防災訓練への参加、②避難所までの経路・避難方法・避難所環境の確認、③避難生活に必要な物品・方法・支援者の準備。

## 1 すべての人のための火災時の安全 (Joseph KWAN, C.J. WALSH)

このワークショップは、ISO21542「建築物のアクセシビリティとユーザビリティの規格」の改定作業において、「すべての人のための火災時の安全」を新項目として準備していることを契機に企画されました。他に、「子ども」、「住宅」が新項目として取り入れられ、「子ども」に関連して学校における火災時のアクセシビリティにも規格ができる見込みです。

「すべての人のための火災時の安全」を考える枠組みは、「場面」と「人的な特性」の2軸のマトリックスから成ります。場面は、建物、道・公共空間・輸送方法（バス、タクシー、電車）、

船、交通機関の乗り継ぎ場所に分けられました。人的特性は、高齢者、障害者（視覚、聴覚、肢体、精神・認知、心理）でした。心理的特性では、例えば、非常階段の壁がガラス張りの場合は、高所恐怖症の人は使えないことに配慮を喚起しました（キューバのホテルの事例）。

アクセシブルな建築物の好事例として、ビッグ・アイ（大阪）の写真が紹介されました。特に、建物の外周を取り囲むスロープは、「バリアフリー建築は美しくないという風説を打破する」と称賛されました。

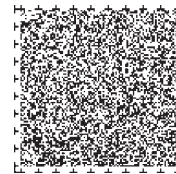
## 2 アジア太平洋諸国におけるDIDRR

行政（マカオ）、作業療法士協会（フィリピン）、特別支援学校（タイ、教育省）、インドネシアと日本の研究者からの発表がありました。ここでは、取り組みが進んでいる日本とタイの発表について紹介します。

### (1) 日本における地域防災訓練への障害者の参加（北村弥生）

日本の防災訓練の概要（消火器操作、バケツリレー、三角巾の使用法、毛布担架の作成方法）を示した後、車いす利用者が体育館に入るときに、入り口の3段の段差を越えることに関わる6年の経験を紹介しました。取り組みを始めた当初は、設定した目標課題に対し、期待と異なる解決策が地域住民から提案されましたが、6年目には期待通りの解決策が地域住民から提案されるようになりました。それぞれの立場を考えながら、急がずに継続することが重要であることを伝えました。

車いす利用者のほかに、聴覚障害者（手話通



訳、筆談、アナウンス内容の掲示)、全盲者と盲導犬利用者(ガイドヘルパー利用、町内会での事前交流会)、発達障害者(スタッフとして参加)などの参加を得て、それぞれの配慮方法が蓄積されています。防災訓練の閉会式で障害当事者を紹介すること、中学生・大学生に事前研修をして介助を依頼することも行いました。

7年目の2019年には、所沢市の自立支援協議会、危機管理課、障害福祉課、美原小学校、町内会の協力を得て、精神障害者の通所施設とグループホームから当事者7名、職員等6名の参加を得て、小学校のトイレ確認と起震車の体験、消火器訓練を行いました。

## (2) タイ教育省が主導する特別支援学校から始める防災訓練

**Nantanoot SUWANNAWUT博士(教育省、学術専門官)**

アジア太平洋諸国では地域防災訓練はあまり行われていません。例えば、タイでは、雨季に増水し生活が変化するのは当然と考えられるからです。ただし、気象変動により、被害が増強したために防災対策への注目は高まっています。特に、障害者にとっては災害準備は必須です。そこで、タイ教育省は2016年に「特別支援学校におけるDIDRR事業」を始めました。

発表者は全盲で、「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」研修生として日本に滞在して得た人脈を介して第3回国連世界防災会議(仙台)に参加しました。そこで、仙台防災枠組が採択される経過とDIDRRセッションの記録に従事した知見から、教育省に奉職した機会に本事業を企画しました。

事業は、①学校避難計画を作成するためDIDRRマニュアルとガイドラインの作成、②日本から講師を招聘して、学校代表者を対象としたDIDRRワークショップの実施、③特別支援学校全176校へのDIDRR活動を行うための資金提供、④各学校における避難計画に基づいた実践活動の集約から構成されています。

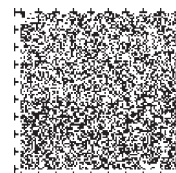
この事業の成果として、特別支援学校におけるDIDRRの理解が広まり、避難訓練が実現しました。特別支援学校が開発した訓練技術やDIDRRマニュアルを、避難訓練や避難計画作成に取り組んでいない普通学校や地域にも広めることが期待されています。

## 3 マカオ市街のバス停留場

近年、マカオ(中国)では巨大台風の襲来が続き、人的物的に大きな被害が出たため、政府も災害に強い街づくりを開始しました。避難所に指定されている大きな公共体育施設(塔石体育館)の前にあるバス停留所の画面の下3分の1(図1)には行政区における防災体制の解説動画(10分程度)が表示されていたのは広報として有効と感じられました。



図1 マカオ市内のバス停留所に表示された防災情報



## 第9回POアカデミージャーナル論文賞受賞報告

研究所 義肢装具技術研究部

この度、研究所義肢装具技術研究部の三ツ本敦子義肢装具士と中村隆義肢装具士長は、公益財団法人日本義肢装具士協会の学術誌「POアカデミージャーナル」の優れた論文に与えられる「第9回POアカデミージャーナル論文賞」の「原著部門」及び「技術報告部門」をそれぞれ受賞いたしました。これに伴い、令和元年7月14日、日本義肢装具士協会総会にて表彰式が行われましたので報告します。

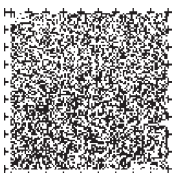
三ツ本義肢装具士が執筆した原著論文「徒手式押し込み反力計の操作が軟部組織モデルの硬さの測定値に与える影響」は、これまで経験的にしか表記できなかった切断肢（断端）の硬さを、押し込み反力計で計測することを試み、その手法を検証したものです。ソケット適合の定量的評価のための基礎的研究として評価されました。この論文は早稲田大学 村岡慶裕教授、中村義肢装具士長、学院 丸山貴之義肢装具学科教官との共著です。

中村義肢装具士長が執筆した技術報告「神経腫の除圧を目的としたライナー用シリコンパッドの製作」は、義足適合の阻害要因となる神経腫に対して除圧を目的としたシリコン製パッドを製作し、その効果を検証したものです。論文にはその製作方法を詳細に記載し、技術的価値が評価されました。この報告は山崎義肢装具士（現支援機器情報専門官）、久保義肢装具士（現心身障害児総合医療療育センター）との共著です。

義肢装具技術研究部は、臨床業務で直面した課題に対し、研究というステージで解決方法を見出し、その結果を再び臨床に還元するという臨床と研究が連携した業務体制をとっています。その成果をまとめた論文に対する今回の受賞は、部の関係者を始め多くの方々の協力により得られたものです。ここに深く感謝の意をお伝えします。



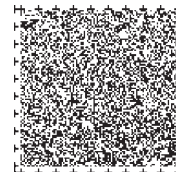
表彰式の三ツ本義肢装具士（左）と中村義肢装具士長（右）（授与者は日本義肢装具士協会 坂井一浩 前会長）





# 令和元年度発達障害臨床セミナーへのお誘い

発達障害情報・支援センター



恒例となりました発達障害臨床セミナーを、11月24日(日)に開催いたします。新たな元号である令和を迎えた今回は通算で4回目になります。心機一転、パネルディスカッションとフォーラムの2部形式とし、午前からの開催としております。

テーマは大規模な自然災害が多発した平成の30年間を振り返りながら、これからの防災のあり方について検討する時間とする予定です。発達障害分野の第一線で活躍されている方々や、報道関係の方々にもご登壇いただき、時間的余裕があればデモンストレーションも実施いたし

ます。受講していただけるのは、発達障害支援の分野で医療・保健・福祉・教育・就労関係業務に従事されている方や行政機関で障害者の防災対策に関わっている方になります。会場はJR品川駅前の「品川フロントビル会議室」で定員は300名です。お申込みは発達障害情報・支援センターのホームページにアクセスしていただき、申込フォームに従って直接お申込みください。応募締切を過ぎていても、定員に達していない場合は受講できますので、希望される方は下記の【お問い合わせ】までご連絡ください。

## 医療・福祉従事者のための 発達障害臨床セミナー

～平成時代を振り返り、令和時代における防災対策のあり方を考える～

日時

2019年11月24日(日)  
10:20～16:50 (受付開始 9:50)

会場

品川フロントビル会議室  
東京都港区港南2-3-13  
品川フロントビルB1階  
JR品川駅港南口(東口)より徒歩3分

参加費 1,000円(資料代:当日受付にて現金徴収)  
定員 300名(先着順)  
(発達障害支援分野で、医療・保健・福祉・教育・就労関係業務及び自治体で勤務している方向けの講演になります)

10:20～開講式  
10:30～12:30 パネルディスカッション

### 「大規模災害時における現場での取り組み」

【コーディネーター・パネリスト】西牧謙吾(発達障害情報・支援センター長)  
【パネリスト】 榎屋二郎(東京医科大学 准教授、福島大学 客員教授)  
今出大輔(おかもやま発達障害者支援センター 主任)  
【コメントーター】 市川宏伸(日本発達障害ネットワーク 理事長)

13:30～16:45 災害時の(障害者に向けた)情報発信フォーラム

～Society5.0時代を見すえて～

Society 5.0とは  
狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されました。

【コーディネーター】村上圭子(NHK放送文化研究所 研究主幹)  
【話題提供者】西牧謙吾(発達障害情報・支援センター長)

### ①NHKのポータル「ハートネット」が取り組んでいる障害者向け災害報道」

【プレゼンター】三宅有子(NHK制作局 チーフ・プロデューサー)

### ②ICTを活用した災害時情報支援」

【プレゼンター】大橋秀行(前総務省近畿総合通信局長)

※途中15分間の休憩を予定しています。

### 【申し込み】

発達障害情報・支援センターホームページ(トップページ左下)より、申込フォームに従って直接お申込みください。ホームページ以外の申込方法を希望される方は、下記【お問い合わせ】先にご連絡ください。

### 応募締切 令和元年11月7日(木)

\*入場には事前申込が必要です。  
\*ご参加いただける方へは別途ご連絡を差し上げます。

### 【お問い合わせ】

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部  
発達障害情報・支援センター 林、飯村  
TEL: 04-2995-3100 (内線2591, 2592)  
FAX: 04-2995-3137 Mail: hattatu-isc@mhlw.go.jp

主催:国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター、厚生労働省  
後援:文部科学省、発達障害者支援センター全国連絡協議会、日本発達障害ネットワーク  
日本知的障害者福祉協会(調整中)、全国児童発達支援協議会(調整中)

### 【お問い合わせ】

国立障害者リハビリテーションセンター  
企画・情報部

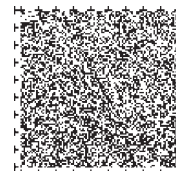
発達障害情報・支援センター  
林、飯村

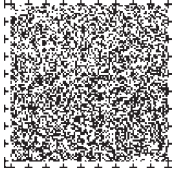
TEL: 04-2995-3100

(内線2591, 2592)

FAX: 04-2995-3137

Mail: hattatu-isc@mhlw.go.jp





## 自立支援局利用者募集

### 〈視覚障害のある方の自立した生活に向けて〉

自立訓練(機能訓練)

視覚障害により日常生活や就労等を目指す上で困っていること等がある方に対し、白杖を使用した歩行訓練や日常生活訓練、学習や就労等で活用可能な音声パソコン、録音機器等の操作方法習得のための訓練等を提供しています。

就労移行支援(養成施設)

国家資格である「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師」の資格取得を目指し、授業(講義、実技実習、臨床実習等)の提供の他、資格取得後の就労に向けた支援を提供しています。就労移行支援(養成施設)の利用に当たっては利用者選考があります。

	応募締切日 (書類必着)	利用者選考日	利用開始 年月
第1回利用者選考	2019年11月22日(金)	2019年12月12日(木)	2020年 4月
第2回利用者選考	2020年1月17日(金)	2020年2月6日(木)	
第3回利用者選考	2020年2月14日(金)	2020年3月5日(木)	

### 〈頸髄損傷等の方の自立した生活に向けて〉

自立訓練(機能訓練)

頸髄損傷等による重度の肢体不自由の方が地域や家庭、職場などで補装具や自動具の活用や環境を調整することによりできる動作を身につけ、より充実した社会生活を送ることができるよう、理学療法、作業療法、リハビリテーション体育、職能訓練等の訓練を提供しています。

### 〈高次脳機能障害のある方が自分らしく暮らすために〉

自立訓練(生活訓練)

高次脳機能障害に伴う記憶障害、注意障害、遂行機能障害等による生活課題に対し、メモリーノート等の代償手段の活用によりスケジュール管理等の生活能力を高められるよう、個々の生活状況に応じて支援します。個別又は集団で訓練を提供しています。

### 〈障害のある方の「働きたい」を支援します〉

就労移行支援

就労が見込まれる主に身体に障害がある方に、一般就労や復職に向けて、就労のための技能習得(事務、作業等)及び模擬的な職場体験訓練を提供しています。就職活動に向けては、職場見学や職場実習の他、履歴書の作成や面接練習なども実施し、面接会の同行等の就職活動も支援しています。

※遠方のため通所で上記サービスを利用することが困難な方には、施設入所支援(宿舍)を提供しています。あわせてご相談ください。

お問い合わせ先

自立支援局総合相談支援部総合相談課 E-mail: rehab-soudan@mhlw.go.jp

TEL 04-2995-3100(内線2211~2215) FAX 04-2992-4525

## 学院学生及び研修生募集

学院は、1. 高校や大学を卒業した方(見込の方を含む)を対象とする専門学校であり、また、2. リハビリテーション関係・福祉関係に現に従事している方々を対象とする研修機関です。

### 1. 専門学校に設置されている学科、応募資格、養成内容は次のとおりです

学科名	修業年限	応募資格(詳しい応募資格はHPをご覧ください)	養成内容
言語聴覚学科	2年	4年制大学を卒業した方(見込の方を含む)	言語聴覚士の養成
義肢装具学科	3年	高等学校を卒業した方(見込の方を含む)	義肢装具士の養成
視覚障害学科	2年	4年制大学を卒業した方(見込の方を含む)	『見えない』『見えにくい』方々の生活を安全で円滑なものにするため、専門知識に基づく適切な助言や有効な用具の選定、訓練などの支援を行う「視覚障害生活訓練専門職員」の養成
手話通訳学科	2年	高等学校を卒業した方(見込の方を含む)	手話通訳士の養成
リハビリテーション体育学科	2年	4年制大学を卒業した方で高校保健体育の免許を有する方等(見込の方を含む)	スポーツを用いて、障害のある方の運動機能や認知機能の維持・改善が図られるよう指導や支援をする「リハビリテーション体育専門職員」の養成
児童指導員科 (発達障害支援者養成)	1年	4年制大学を卒業した方(見込の方を含む)又は保育士資格を有する方(見込の方を含む)	発達障害児・者やそのご家族が『生きづらさ』や『育てにくさ』を感じることなく、日常生活や社会生活を営むことができるよう支援する発達障害支援専門職の養成

### 2. 現任研修については、中期研修(約半年間)と短期研修(1日~1週間程度)があります。主な中期研修の種類と応募資格は次のとおりです。

研修名	応募資格(詳しい応募資格はHPをご覧ください)
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程	看護師として実務経験5年以上の方(うち3年以上は脳血管障害の多い部署での看護実績がある方)
児童指導員科特定研修課程	医療、教育、福祉分野において発達障害支援に携わる現職者で所属長から推薦された方

短期研修については、リハビリテーション関係・福祉関係の現職者を対象に年間約30研修開催しています。研修会名、応募資格や応募期間などはHPをご覧ください。

お問い合わせ先

学院について少しでもご興味をお持ちいただいた方は、どんなことでも、下記までお問い合わせください。

学院主幹 TEL 04-2995-3100(内線2610) FAX 04-2996-0966

## オープンキャンパス 参加申込受付中!!

第1回 <b>済</b> 3月30日(土)	第2回 <b>済</b> 6月22日(土)	第3回 <b>済</b> 7月27日(土)	第4回 <b>済</b> 9月14日(土)	個別 <b>済</b> 5月18日(土)	個別 2020年2月29日(土)	個別 2020年3月28日(土)
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	---------------------	---------------------

詳しくは当センター学院のホームページをご確認ください <http://www.rehab.go.jp/College/japanese/>